

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<p>＜研究課題名＞</p> <p>子宮内膜症・子宮腺筋症における腔内細菌叢、腸内フローラに関する探索的臨床研究</p>
<p>＜研究機関・研究責任者名＞</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 産婦人科 （研究責任者） 千島 史尚</p>
<p>＜研究期間＞</p> <p>承認日 ～ 令和 （西暦 2026）年 12月 31日</p>
<p>＜研究の目的と意義＞</p> <p>子宮内膜症は子宮内膜組織ないしは類似組織が異所性に間質を伴い増殖する疾患です。生殖年齢にある女性の5-10%に発症すると言われます、月経困難症など痛みを伴うばかりでなく不妊の原因ともなりえ、稀ではあるが悪性腫瘍の発生母地にもなり、更に近年、妊娠時の周産期出血性疾患のリスクファクターとなることが報告されています。子宮内膜症は家族内発生や種々の自己免疫疾患の合併が報告されています。病理学的には骨盤腔のみならず全身的にも免疫細胞の異常をともなうとされます。子宮内膜症患者の腹腔内に存在するエンドトキシンという物質が、炎症を惹起し、内膜症の病態を増悪させる可能性が報告されていますが詳細についてはわかっていません。臨床研究として、子宮内膜症患者・子宮腺筋症の診断で手術を受けられる患者さんにおける腔内細菌叢、腸内フローラについて調査し、コントロール(子宮筋腫、卵巣良性腫瘍(奇形腫など))と比較します。またこれらの細菌叢と症状、病態、病理学的所見と関連があるか診療録の情報を調べて検討いたします。</p>
<p>＜利用する試料・情報の項目＞</p> <p>診療記録より、年齢、性別、X線写真、CT、MRI画像、超音波画像、血液検査データ（血算、生化学的検査、腫瘍マーカー）、腔分泌物培養検査、腸内フローラ（便の検査）治療方法、転帰の情報を使用いたします。</p>
<p>＜対象となる方＞</p> <p>西暦 2016 年 1 月 1 日～西暦 2023 年 12 月 31 日の期間に産婦人科で子宮内膜症患者・子宮腺筋症・子宮筋腫・卵巣良性腫瘍(奇形腫など)で手術・治療を開始された方</p>
<p>＜研究の方法＞</p> <p>子宮内膜症患者・子宮腺筋症の診断で手術を受けられる患者さんにおける腔内細菌叢、腸内フローラについて調査し、コントロール(子宮筋腫、卵巣良性腫瘍(奇形腫など))と比較します。またこれらの細菌叢と症状、病態、病理学的所見と関連があるか診療録の情報を調べて検討いたします。</p>
<p>＜外部への試料・情報の提供の方法＞</p> <p>該当なし</p>

<研究組織>

該当なし

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

産婦人科 氏名：千島 史尚

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2522 (PHS) 8263